

離島球児たちの熱い夏が再び!

3年ぶりの離島甲子園開催



令和四年八月二二日（月）、新潟県佐渡市で第一三回全国交流中学生野球大会（通称…離島甲子園）が開幕した。コロナ禍で中止が続いていた同大会は、三年ぶりの開催。北は北海道礼文町から南は沖縄県竹富町まで、全二二チームの離島球児たちの熱戦が三日間にわたり繰り広げられた。

二五日（木）八時三〇分、新上五島ファイブスターズ対佐渡市中学校一・二年生選抜のプレーボールが宣告され、決勝戦の火蓋が切られた。

試合は四回表に新上五島が一点を先制。その裏、佐渡は満塁を迎えるも得点はならず、一点差のまま最終回の攻撃を迎える。球場に駆けつけた地元の方々が固唾（かたず）を飲んで見守る中、土屋斗希桜君（としか）の三塁打で同点に。その後再び満塁となり、最後は押し出しのフォアボールで、佐渡が栄光を手にした。その瞬間、会場は歓声や選手たちの健闘を称える声に包まれた。



01. 気迫のこもった投球を見せる佐渡の土屋太偉哉(だいや)君。02. 追加点とろぞ！ 新上五島ベンチからの声援にも熱が入る。03. 初回の佐渡の攻撃。打席に立つ中川大翔(ひろと)君。04. 決勝戦が行なわれた畑野球場のスタンドは、保護者をはじめ多くの地元の方々と埋まった。05. 優勝の瞬間、喜びを露わにする選手たち。右端が主将の本間海翔(かいと)君。06. 最後まで力走した新上五島の石田健太郎君。07. ホームへ向け力走する新上五島の田邊千洋(ちひろ)君。08. 優勝旗が佐渡市中学校1・2年生選抜に授与された。

決勝戦 TEAM	1	2	3	4	5	計
新上五島ファイブスターズ	0	0	0	1	0	1
佐渡市中学校1・2年生選抜	0	0	0	0	2×	2





10



11



09



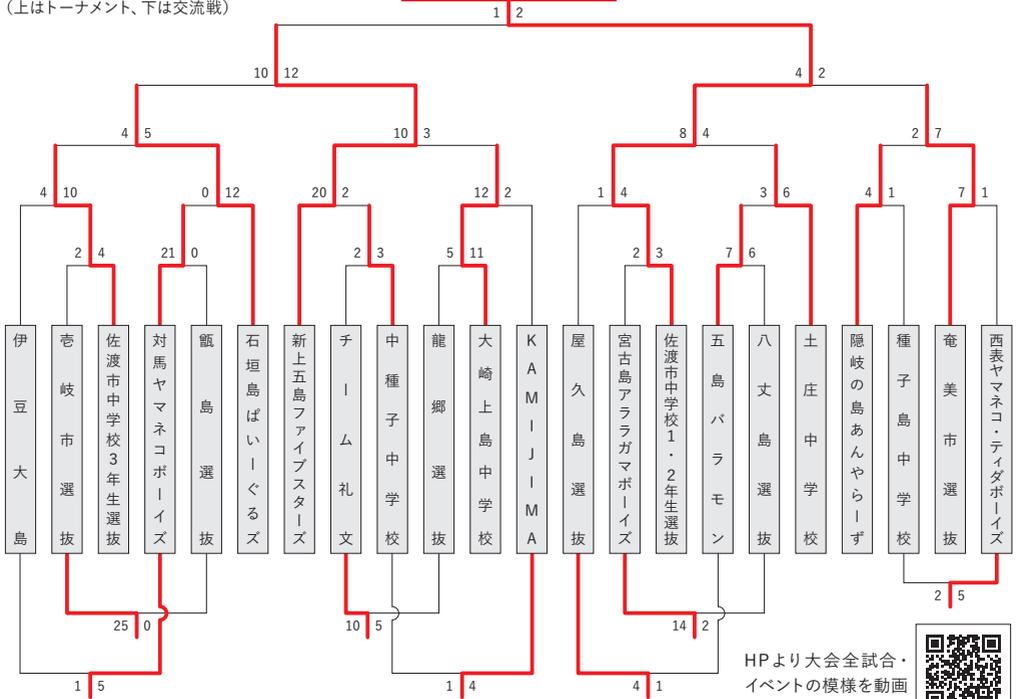
132

12

09. 屋久島選抜の荒木天(てん)君。力の入った投球が光る。
10. 西表ヤマネコ・ティダボーイズと奄美市選抜戦での緊迫したクロスプレー。11. 力強いスイングの花城朗維(らい)君(宮古島アララガボーイズ)。12. 奄美市選抜対隠岐の島あんやらずによる準々決勝。13. ホームランを打った濱田勇人(ゆうと)君を迎える奄美市選抜ナイン。14.グラウンドでは得点のたびにチーム全員で喜び合う選手たちの姿が見られた。15. 五島パラモン(下)を応援する八丈島選抜(上)。前日に対戦した両校。勝敗に関わらず、試合を通して選手たちの絆は結ばれていく。16. 夕焼けが近づく中で行なわれたKAMIJIMA対大崎上島中学校の瀬戸内海対決。大会は畑野、佐和田、両津、金井の4会場に分かれて実施された。

組み合わせ表・対戦結果
(上はトーナメント、下は交流戦)

佐渡市中学校1・2年生選抜





18

17.2分間でのキャッチボールの回数を競う「キャッチボールクラシック」。写真は離島甲子園初出場の土庄中学校。18.キャッチボールクラシックで優勝した対馬チーム。19.脇を締め、顔の前で捕る。袴田英利さんの捕手指導。20.野球教室では、元プロの打撃指導を受けホームランも飛び出した。21.開会セレモニーの会場では、前回大会の様子がスクリーンに流された。22.佐渡初のプロ野球選手・菊地大稀投手から「いつか皆さんとプレーできることを願っています」と、参加者に向けたビデオメッセージが届けられた。23.佐渡市立佐和田中学校吹奏楽部の演奏による開会式の入場行進。24.大会実行委員長を務めた渡辺竜五佐渡市長から選手たちに佐渡特産のお土産が手渡された。25.離島甲子園で培った絆・スキルを持って球児たちはそれぞれの島へ戻っていく。



19



17



134

20



全国から集まった三〇〇人を超える
離島球児たち。大会終了後には、「キ
ャッチボールクラシック」でチームを
超えて和気あいあいと楽しむ姿や、野
球教室で元プロからの直接指導に真剣
に耳を傾ける姿が見られた。プロの技
に触れたり、対外試合などの機会が限
られる彼らにとって、大会や交流を通
して得たものは、野球に限らず今後の
人生における大きな糧となるだろう。

昨年、佐渡出身者初のプロ野球選手
として読売ジャイアンツに入団した菊
地大稀選手、今春の選抜高校野球に出
場した鹿児島県立大島高校の選手など、
離島甲子園を経験し、その後も努力を
重ねて夢を実現させていく先輩の姿は、
今大会の出場選手たちや未来の離島球
児たちの大きな励みとなる。

あわせて自治体の行政・教育関係者
など離島関係者間の幅広い交流の拡大
という点においても、意義深い大会で
ある。

(写真と文・石川)

